

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（北部会場）概要

テーマ：「乳幼児とわらべうたー実践と理論ー」

講師：落合 美知子 氏（児童図書館研究会会員・子ども社会学会会員他）

会場：宮津市福祉・教育総合プラザ 第1コミュニティルーム
（宮津シーサイドマート Mipple）
宮津市字浜町 3012 番地 宮津阪急ビル 3階）

日時：平成 29 年 11 月 30 日（木）午後 1 時 30 分～4 時

講演 1 時 40 分～3 時 30 分

質疑応答 3 時 30 分～4 時

参加者数：21 名

概要：子どもを取り巻く環境は、電子メディアの普及等で、人や自然とのふれあいが希薄になってきた。最近では赤ちゃんがぐずったりしたらスマートフォンを持たせて自身は何もしない母親もいるようだが、本来母親が目と目をあわせて話しかけるべきものであり、これでは前頭葉の発達に影響を及ぼす恐れがある。

乳幼児サービスは、乳幼児が求めることに応えることである。

この研修会では、乳幼児期に獲得していくことばについて、参加者相互に楽しく関わりあいながら、わらべうた、絵本、おはなしを通して、その大切さを感じて学んで、今後の乳幼児サービスに活かしていく契機にしていきたい。

乳幼児には、効果的に感じとることができるおはなしや絵本の読み方、伝え方があるので、本日は実際に体験してみる。

（会場内にウレタン製ボードを敷き詰め、おはなし会で使うような床空間を用意。靴を脱いで上がって着座）

- ・わらべうたを実際に歌ってみる。
心地よいリズムと言葉は、感性を育てる。
- ・耳で声を聞く、目を見る、口元を見ることで真似をする。
まねることがまなぶこと。
喜んでいるように見えても心の中は満たされていないこともある。
- ・自身の子ども時代の経験が役に立つ。
- ・具体的な事例と実演を体験。

実際に歌を歌ってみる場面では、黄色い布きれを使ってみたり、二人でペアになってみたり、隣の人の手を使ってみたりするなど、講師の豊富な経験を交えて、実演の際にすぐに使えそうな心構えや注意点について細かにアドバイスを得られた。